ボーリング柱状図

調　査　名　一般国道433号改良事業に伴う設計業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.	5	1	3	2	7	2	7	9	0	0	1

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	広島県山県郡北広島町戸谷地内　(No.69+16.7　R0.5m)	北緯	34° 38' 35.8958"
発注機関	広島県西部建設事務所安芸太田支所	調査期間	平成27年11月16日～平成27年11月26日	東経	132° 22' 02.1492"
調査業者名		主任技師		現場代理人	
コア鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	TP 334.36m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 270°西 90°東 180°南
地盤勾配	38° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種		試錐機	東邦地下工機　D1-B
ハンマー落下用具	自動落下	総掘進長	15.00m	エンジン	ヤンマー　NFD13
ポンプ	東邦地下工機　BG-3B				

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 cm/時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l/分	排水量 l/分
1				玉石混じり砂質礫	暗褐						直径8cm以下の礫を主体とする。礫分70%程度の緩い礫質土。コアの長さが20cm程度の硬質な玉石が点在する。玉石の占める割合は約20%。礫は弱く風化した流紋岩の角礫を主体とし、硬質である。基質は粘土質砂であり、深度1.0m付近まではやや有機質。深度1mおよび2mの貫入試料の含水比は中くらいで、深度3mの貫入試料は含水比が高い。	(盛土および軟弱堆積物)	11/18 無し						600	66／ケーシング	S／MC	20	60	0	無水／0	0
																			0			0	0			
2					褐灰								11/24 1.55	1.15 1.45	9/30			11 17	150		D/DC	20	200	0	泥水／20	20
																			360		S/MC	20	60	0		0
3														2.15 2.47	8/32				0			0	0			
																			110		D/DC	20	150	0	無水／0	0
													11/25 3.48 11/27 3.81	3.15 3.45	10/30				0		S/MC	0	0	0		
	330.46	3.90																	330			40	60		泥水／10	0
4				凝灰岩		C	V	d			所々に断層破砕帯が見られる安山岩質凝灰岩。新鮮かつ硬質な片状および柱状コアを主体とする岩盤で、断層破砕帯では10～20cmの区間で淡灰色の粘土化帯が見られ周囲の岩盤は礫状に破砕する。深度4.25mまでは、礫および砂状コア。深度4.25～8.00mは、片状コア部と柱状コア部が交互に出現する。途中深度6.30～6.70mは、薄い粘土脈を伴う角礫状の破砕帯。	(安山岩)		4.05 4.21	50/16				0			0		無水／0	
																			68			20	200	0		10
5					暗灰	B	IV	c		3		CL						11 18	75						泥水／10	
							III					CM														
6							IV					CL	11/21 5.92 11/25 6.46						100							
						D	V	d		4		D													泥水／20	10
7						B	III	b		3		CM							77			20	200			
								c																		
8						C	IV					CL							111							
					淡灰	D	VI	d		4	深度8.00～9.90mは、断層破砕帯が頻繁に見られ、礫状コアを主体とし、深度8.2m、8.5m、8.7m、9.3m、9.8mの付近は砂・粘土状の断層破砕帯。孔壁の崩落が生じる。	D							70						
9						C	V		β	3		CL							60			0	150	0	泥水／20	0
					暗灰	D	VI			4		D							60							
							V												75							
10						C	V			3	深度9.90～10.45mは、硬質な礫状コア。深度10.45～11.10mは、割れ目に軟らかい白色鉱物を挟む。	CL					11 20	75							
							IV											11 21	80							
11																			60			10	150	0	泥水／20	20
					暗緑灰	D	V			4	深度11.10～11.50mは、変質した網状の破砕部で軟質な棒状コア。深度12.30mまでは同様の小規模な破砕部が見られる片状コア。	D				11.50			78							
12						C	IV					CL							84							
					暗灰	B	III	c		3	深度12.30以深は、硬質な長さ5～20cmの柱状コアを主体とする。途中深度13.60～14.10mは、片状コア主体で一部礫状。割れ目には白色鉱物脈が見られ、所々で破砕し砂・細礫を薄く挟む。深度14.70m以深は、変質により脱色するがコアは硬質。	CM				現場透水 k=3.10E-06m/s				66	D／DC	30	150	0	清水／20	20
13																			91							
14							IV					CL														
							III					CM														
15	319.36	15.00			暗緑灰					4						15.00		11 24	82							
16																										
17																										
18																										
19																										
20																										

コア採取率 ×（%）　最大コア長 ●— cm　RQD ——［%］